

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(b) (b)、(c)にあてはまる適切な言葉を、それぞれ二字の現代語で書きなさい。

b

c

(c) (d)にあてはまる言葉として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 愚者のほうが最終的に成功する
- イ 才子のほうが最終的に成功する
- ウ 少年のほうが最終的に成功する
- エ 後日のほうが最終的に成功する

22

〔古文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔静岡〕

雲山うんざんといへる肩衝かたつき、堺さかひの人所持アしたるが、利休りきゅうなど招きて、はじめて茶

の湯に出したれば、休りきゅう、一向気いっけいに入らぬ体ていなり。亭主ていしゅ、客帰きやくかへりて後、当

利休りきゅう まったく気に入らない様子

世よ、休りきゅうが気に入らぬ茶入れおもしろからずとて、五徳ごとくに擲なげち破やぶけるを、か

世よの中なかで

今いまの

たはらに有りける知音ちいんの人ひともらうて帰り、手づから継つぎて、茶会ちあひを催いし、ふ

にいた知り合あひのひとが

そは

たたび休りきゅうに見せられたれば、これでこそ茶入れ見事けんじなれとて、ことことのほほか称ほめ美めい

とりたてて

す。よてこの趣おもむききもとの持主もちぬし方かたへいひやり、茶入れ秘藏ひざうせられよとて戻かへし

大おほ切きにしまつておきなさい 返かへした

ぬ。

その後、件くだんの肩衝かたつき、丹後たんごの太守たうしゅ、値千金ちせんごんに御求ごもとめ候こうひて、むかしの継目ついでめ

前述ぜんじつの

大金おほなげでお買かひい、求もとめになりまして

ところどころ合あはざりけるを、継つぎなをし候こうはんやと小堀こぼり遠州えんしゅうへ相談さうだん候こうへ

合あわなかつたので

つなぎ合あわせ直ただしませうか

ば、遠州えんしゅう、この肩衝かたつき破やぶれ候こうひて、継目ついでめも合あはぬにてこそ利休りきゅうもおもしろが

小堀遠州

割われまして

合あわなないからこそ

興味きょうみ深く感じてお

10

り、名高なかつきくも聞きえ侍はべれ。かやうの物は、そのままにておくがよく候こうふと申まをされまをき。このような

（藤原庸軒・久須美疎安「茶話指月集」による）

（注）肩衝…茶の湯で使用する抹茶を入れておく、陶器製の茶入れの一種

利休…千利休。安土桃山時代の茶人

亭主…茶の湯で茶をたてて接待する人

五徳…鉄瓶などを置いて火にかけるための金属製の道具

丹後の太守…丹後国の領主。丹後国は今の京都府の一部

小堀遠州…小堀政一。江戸時代初期の大名で茶人

〔1〕「かたはら」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

〔2〕線ア、エから、その主語にあたるものが同じであるものを二つ選び、記号で答えなさい。

〔3〕亭主が、「擲ち破ける」のように行動したのは、雲山という茶入れをどのように感じたからですか。亭主がこの茶入れに感じたことを、この茶入れに対する利休の様子が分かるように、現代語で書きなさい。

〔4〕小堀遠州は、丹後の太守に、雲山という茶入れについてどのような助言をしていますか。その助言を、小堀遠州が述べている、この茶入れに対する利休の評価と利休がどのように評価した理由が分かるように、現代語で書きなさい。

23

〔古文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔愛知〕

*たいてい太宗、侍臣にいに謂いひて曰いはく、「古人い云ふ、『鳥、林すに棲すむも、猶なほ其その高たかからざらんことを恐れ、復またた木末すに巢くふ。魚、泉いに蔵かくるるも、猶なほ其その深ふかからざらんことを恐れ、復またた其そのの下したに窟く穴けつす。然しかれども人ひとの獲うる所ところと為なる者は、皆みな、餌えを食くるに由よるが故ゆなり。』と。今いま、人臣にんしん、任にんを受けて、高位こういに居をり、厚こう禄ろくを食はむ。当あたに須すく忠正しゅうせいを履ふみ、公清こうせいを踏ふむべし。則すなはち災害さいがい③無く、長ながく富貴ふきを守まもらん。古人こじん云ふ、『禍福くわふくは門かど無し、惟ただだ人ひとの召まねく所ところのみ。』と。然しからば其そのの身みを陥おとしるる者は、皆みな、財利ざいりを貪たん冒ぼうするが為ためなり。夫かの魚鳥いさなとりと、何なにを以もつて異ちがならんや。卿等けいとう、宜よろしく此この語ことばを思おもひ、用もちて鑑かん誡かい④と為なすべし。』と。

〔貞観政要〕による

〔注〕太宗…唐の第二代皇帝の李世民のこと

(1) 「当に須く忠正を履み、公清を踏むべし」とありますが、この言葉によって太宗が言いたいこととして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 主君と家臣の信頼関係を大切にし、社会の安定を図るべきである。
- イ 人民のために働くべきであり、高位高官を目指すべきではない。
- ウ 国が豊かになるには、役人が清貧の生活に甘んじる必要がある。

工 まじめで正しい行いをし、清廉潔白な生き方でなければならぬ。

(2) 「禍福は門無し、惟だ人の召く所のみ」の説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 家臣がどれだけ幸せであるかは、仕える主君によるということ。
- イ 幸せになるか不幸になるかは、その人の行動しだいということ。
- ウ 幸せな人生を送れるかどうかは、家柄とは関係がないということ。
- エ 安易に人の誘いに乗ることは、不幸を招く原因になるということ。

(3) 「夫の魚鳥と、何を以て異ならんや」とありますが、このように述べる理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 動物の世界と同じように人間の世界も弱肉強食であるから。
- イ 自分が欲するものへの執着によって身を滅ぼしているから。
- ウ どれだけ努力をしても自分より強い者には逆らえないから。
- エ 慎重になりすぎると獲物を逃してしまうことになるから。

(4) 本文に書かれていることと一致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 太宗は鳥と魚を対比させながら家臣としてのあるべき姿を説いた。
- イ 太宗は自然界の道理を例にとって家臣に理想の主従関係を示した。
- ウ 太宗はたとえ話を用いて家臣に長く富や地位を守る方法を語った。
- エ 太宗は家臣との結束を強めるために昔の失敗談を語って聞かせた。

次の文章は、「古今著聞集」の一節です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔京都〕

九条の大相国^{*くでう}浅位^{*あらい}の時、なにとなく后町^{*ごまち}の井を、立ちよりて底をのぞき給^{たま}ひけるほどに、丞相^{*しやうじやう}の相見^{あひま}えける。うれしくおぼして帰り給^{たま}ひて、鏡をとりて見給^{たま}ひければ、その相なし。いかなる事にかとおほつかなくて、また大内^{*おおい}に参りて、かの井をのぞき給^{たま}ふに、さきのごとくこの相見^{あひま}えけり。その後しづかに案^{あん}じ給^{たま}ふに、**A** 見るにはその相なし。5 **B** 見るにはその相あり。この事、大臣^{*おとど}にならんずる事遠^{とほ}かるべし。つひにはむなしからじ、と思^{おも}ひ給^{たま}ひけり。はたしてはるかに程^{ほど}へてなり給^{たま}ひにけり。この大臣^{*おとど}は、ゆゆしき相人^{*あいにん}にておはしましけり。宇治^{*うぢ}の大臣^{おとど}も、わざと相^{あひ}せられさせ給^{たま}ひけるとかや。

〔新潮日本古典集成〕による

(注) 九条の大相国：藤原伊通 浅位の時：位の低かつた頃

后町の井：内裏にある、皇后の宮殿へ渡る通路のかたわらにある井戸

丞相の相：大臣の人相 おぼして：お思いになつて

大内：内裏 大臣にならんずる事：大臣になるということ

つひにはむなしからじ：いずれは必ず大臣になれるのであろう

ゆゆしき：すばらしい 相人：人相を見てその人の将来の運勢を占う人

宇治の大臣：藤原頼長 わざと：特に依頼して

(1) **A**、**B**にあてはまる表現の組み合わせとして最も適切なものを

次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア A 井にて近く B 鏡にて近く

イ A 井にて遠く B 鏡にて近く

ウ A 鏡にて近く B 井にて遠く

エ A 鏡にて遠く B 井にて近く

(2) 次の会話文は、未波さんと幸治さんが本文を学習したあと、本文について話し合ったものの一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

□

未波 本文にある「大相国」や「丞相」という言葉は唐名といって、日本の役職を中国風に言い換えた名称のようだよ。

幸治 それぞれ「太政大臣」と「大臣」の唐名なんだね。当時の日本の貴族は、中国の古典を教養として学んでいたんだよね。本文に登場する九条の大相国と宇治の大臣も学んでいたようだよ。

未波 そうだね。私たちが使っている教科書に、「韓非子」の一節として、「之を誉めて曰はく、『吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。』と。」が載っていたね。現代の私たちも、古代中国の有名な思想家の言葉や故事成語からさまざまなことを学んでいるよね。

幸治 そうだね。ところで、本文から、九条の大相国はどのような人物だったことが読み取れるかな。

未波 本文から、九条の大相国は、大臣の人相が見える条件を冷静に考えて物事を見通す、分析力のある人物だったことが読み取れるね。

幸治 うん。九条の大相国の予想通り、「**□**」大臣になったことから、筆者が九条の大相国を「ゆゆしき相人」だと表現しているのも納得だね。

(a) 会話文中の「之を誉めて曰はく、『吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。』と。」は、漢文では「誉之曰吾盾之堅莫能陷也」のように記します。これに句読点、返り点、送り仮名などをつけたものとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 誉^{メテ}之^ヲ曰^{ハク}、「吾^ガ盾^ノ之^ノ堅^キ莫^ク能^ク陥^ス也^ト。」

イ 誉^{メテ}之^ヲ曰^{ハク}、「吾^ガ盾^ノ之^ノ堅^キ莫^ク能^ク陥^ス也^ト。」

ウ 誉^{メテ}之^ヲ曰^{ハク}、「吾^ガ盾^ノ之^ノ堅^キ莫^ク能^ク陥^ス也^ト。」

エ 誉^{メテ}之^ヲ曰^{ハク}、「吾^ガ盾^ノ之^ノ堅^キ莫^ク能^ク陥^ス也^ト。」

□

(b) 会話文中の にあてはまる最も適切な表現を、本文中から七字で書き抜きなさい。

25

〔漢文と書き下し文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔広島〕

魯の国には、他国に捕らわれた自国の人を、金を払って救出した人に対して、後に国がその金を支払うという法があった。孔子の弟子の賜は、金を払って魯の国の人を救出したが、国からの金を受け取らなかった。

【書き下し文】

孔子曰はく、「賜之を失せり。今より以往、魯人、人を贖はざらん。其の金を取るとも、則ち行ひに損する無く、其の金を取らざれば、則ち復た人を贖はず。」と。

* 子路、溺者を拯ふ。其の人之を拝するに牛を以てし、子路之を受く。孔子曰はく、「魯人必ず溺者を拯はん。」と。

孔子之を見るに細を以てし、化を觀ること遠きなり。

5

【漢文】

孔子曰、「賜失之矣。自今以往、魯人、不贖人矣。取其金、則無損於行、不取其金、則不復贖人矣。」

子路、拯溺者。其人、拜之、以牛、子路受之。孔子曰、「魯人必ず拯溺者矣。」

孔子見之、以細、觀化遠也。

〔呂氏春秋〕による

5

(注) 子路：孔子の弟子

〔必〕① 「曰はく」のひらがなの部分を現代仮名遣いに直して書きなさい。

曰

〔必〕② 「其の人」とは、誰のことですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 孔子
- イ 賜
- ウ 子路
- エ 溺者

〔必〕③ 「見之」に、【書き下し文】の読み方になるように、返り点を書きなさい。

見之

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔高知〕

問ひて曰はく。昔より数知らず詠みたる歌のことなれば、今は風情も趣向もみなこれまで言ひ尽くして、おもしろく新しき歌は出で来ず。ことに和歌の詞は至りて少なきものなれば、もはや先輩にことごとく詠み尽くされて、今の歌はその跡を少しづつ詞を換へて詠むまでのことにて、我が物とは思はれず。何の詮もなきやうなり。

答へて曰はく。これ⁵和歌を知らず。未熟[＊]至極の問ひなり。すべて歌は古き詞を取り用ひるを本意とし、もとより用ひる詞定まりて、世々みな同じ詞の内を用ひ来たり。今迄詠まぬ詞なりとも、よき詞出で来たらば構はず用ひ詠むべけれども、昔より詠まぬ詞に麗はしき詞は、今詠み出づるといふことは大方ならぬことなり。さればただ古き詞にて新しく詠みなすべし。歌は古き詞にても、一字二字の分ち、てにはの使ひやうなどにて、格別に新しく取りなざるなり。趣向も今新しく格別に詠み出でんとすれば、異様に卑しくなりて甚だ嫌ふことなり。ただ古くより詠み来たる風情を、おもしろく新しく詠むが上手なり。歌知らぬ人は、詞も情も大方古きに似たれば、何のこともなき一通りの歌と思へど、さにあらず。続け柄、使ひやうによりて、詞も情も□□のことに甚だ新しくおもしろくなることなり。

〔本居宣長「排蘆小船」による〕

(注) ことに：特に 詮もなき：意味もない

至極：この上ない

一字二字の分ち：一字二字の区別

てには：助詞の「て」「に」「は」

異様に：ふつうとは異なつて

さにあらず：そうではない

続け柄：続け方

〔必〕

(1) 「使ひやう」を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

(2) 「我が物とは思はれず」とありますが、なぜ「我が物」と思われなないので

か。その理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 昔からある数多くの和歌の一部を組み合わせて詠みただけだから。

イ 昔から詠み継がれてきた風情を新しい詞で詠むに過ぎないから。

ウ おもしろい和歌になるように詞をただつないで詠むだけだから。

エ これまで多くの人に用いられてきた詞で和歌を詠むしかないから。

(3) □□にあてはまる言葉として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今 イ 少し ウ 未熟 エ すべて

〔類〕

(4) 本文で述べられている内容の説明として最も適切なものを次から一つ選

び、記号で答えなさい。

ア 歌は、古くから同じ詞を用いて詠まれてきたので、新しい詞で情を表現するよりも、古い詞を用いていた当時の人の思いを想像しながら詠むことが大切だと述べている。

イ 歌は、古くから詠まれてきた歌をまねることで上達するので、新しい詞を取り入れるよりも、古い詞を繰り返し用いて詠むことが重要であると述べている。

ウ 歌は、本来、古い詞を用いて詠むことを大切にしてきたので、無理に新しい趣向を凝らすとするよりも、古い詞を用いて新しく詠むことがよいと述べている。

エ 歌は、古い詞を用いながら新しい趣向を凝らして詠むべきものだが、詠んだ歌が古い歌と似てしまうので、新しい詞を用いることが好ましいと述べている。